

事務事業名		小中学校体育文化活動出場補助事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	06: 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成16 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	27: 義務教育の充実			
	基本事業名	04: 心豊かでたくましく生きる人間の育成			
根拠法令				予算科目 会計 01 款 10 項 01 目 04 事業 04	
所属	部課名	教育委員会 学校教育課			
	係名				
	電話内線	0192 - 27 - 3111 287			
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 小中学校において、県体育連盟等が主催する体育文化関係の県大会及び県大会以上の大会(東北大会、全国大会)に出場した場合、参加した児童生徒の旅費の一部を予算の範囲内で補助する事業。 主な業務は次のとおり。大船渡市小中学校長会からの交付申請書を審査し、補助金を支出する。大船渡市小中学校長会が、随時、大会に出場した小中学校からの部分配分申請に応じて補助金を交付するので、その都度、書類確認を行う。年度末に、大船渡市小中学校長会が小中学校から精算配分申請に応じて補助金を市からの補助金を全額配分するので書類確認する。大船渡市小中学校長会から事業完了報告が提出されるので、書類を精査・確認する。 事業費は大船渡市小中学校長会への補助金として支出される。				全体計画 (期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A) + (B) 0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 市内小学校5校、中学校8校に体育文化活動出場補助金を交付した。交付総額は3,000千円であり、正規旅費総額の60.5%に相当する。 今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 前年度と同様に予算の範囲内で補助金を交付する。	活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>ア 市内小中学校の児童生徒数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	ア 市内小中学校の児童生徒数	人	イ		ウ	
名称	単位								
ア 市内小中学校の児童生徒数	人								
イ									
ウ									
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 県大会以上の体育文化関係の大会に出場する小中学校の児童生徒	対象指標 (対象の大きさを表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>カ 大会に出場する児童生徒数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>キ 出場する大会数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	カ 大会に出場する児童生徒数	人	キ 出場する大会数	件	ク	
名称	単位								
カ 大会に出場する児童生徒数	人								
キ 出場する大会数	件								
ク									
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 大会に参加しやすくなる。	成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標) <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>サ 大会に出場する児童生徒の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	サ 大会に出場する児童生徒の割合	%	シ		ス	
名称	単位								
サ 大会に出場する児童生徒の割合	%								
シ									
ス									
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 豊かな人間性が培われる。 健康でたくましく成長できる。									

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業内訳	単位						
		千円						
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	3,300	3,300	3,135	3,000	3,000	3,000
	事業費計 (A)	千円	3,300	3,300	3,135	3,000	3,000	3,000
	人件費	人	1	1	1	1	1	1
	延べ業務時間	時間	40	60	40	30	30	30
	人件費計 (B)	千円	160	240	160	120	120	120
	トータルコスト(A) + (B)	千円	3,460	3,540	3,295	3,120	3,120	3,120
活動指標	ア	人	3,968	3,880	3,712	3,616	3,464	3,274
	イ							
	ウ							
対象指標	カ	人	686	686	573	751	798	924
	キ	件	83	83	83	96	93	88
	ク							
成果指標	サ	%	17.3	17.7	15.4	20.1	23.0	23.0
	シ							
	ス							

事務事業ID	0934	事務事業名	小中学校体育文化活動出場補助事業
--------	------	-------	------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
以前から（詳細な時期は不明）。

事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
特に変わっていない。

この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？
以前は、全ての大会が終了した年度末において、教育委員会が直接各小中学校に補助金交付していたが、平成18年度から、大船渡市小中学校長会が教育委員会から補助金を受け、各小中学校の希望する時に補助金を配分することとなり、学校側から「資金繰りが円滑となった」との評価を受けている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 体育文化活動の向上により、児童生徒の心身の健全育成が図られる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 大会参加には相当額の経費がかかることから、その負担を軽減する必要がある。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 宿泊費、交通費、参加料等の経費が必要となる県大会以上の大会への参加を対象としており、妥当と考える。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 現在は、予選を突破して各学校の代表として大会に出場することから、財政的に可能であれば、大会参加に係る必要経費の全額を交付することが望まれるが、予算の範囲内で補助金交付することとなり現状維持が適正と考える。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 補助金廃止は、児童生徒の保護者への負担増に直結することから、大会参加を辞退する学校が出てくることが予想される。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 類似事業はない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など） 補助金であり、削減は児童生徒の保護者への負担増に直結する。
	人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど） 補助金を支出するだけの事業であるし、1名の担当職員が事務処理していることから人件費の削減は困難である。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 補助金の対象としているのは旅費の一部であり、宿泊費等の個人負担があることから、他児童生徒と不公平とは言えない。また、学校代表として大会に参加しており、特定の受益者に偏っているとは言えない。

事務事業ID	0934	事務事業名	小中学校体育文化活動出場補助事業
--------	------	-------	------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成18年度に補助金の交付方法・交付時期等を変更しており、以前より補助金が有効に活用されていると考える。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状維持		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	学校教育課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																							
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 県大会以上の大会へ出場した際、旅費の一部の補助金を交付することが目的であり、適切な事業である。										
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 平成18年度より、補助金申請の時期を問わないことにしたことにより、学校側の立て替え払いが生じなくなった。現状通り継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
